

平成26年6月19日

全国B型肝炎訴訟北海道原告団 御中
全国B型肝炎訴訟北海道弁護団 御中
薬害C型肝炎訴訟北海道原告団 御中
薬害C型肝炎訴訟北海道弁護団 御中
北海道合同法律事務所
弁護士 中島 哲 様

北海道愛別町議会
議長 中山 英



意見書の結果通知（写し）の送付について

平成26年5月16日付け、貴台より提出依頼のありました意見書につきましては、当町議会平成26年第2回定例会（6月19日議決）において、別紙のとおり可決され、下記のとおり各関係所管に提出しましたのでお知らせいたします。

記

(1) ウイルス性肝炎患者に対する医療費助成の拡充を求める意見書

- ⇒ 送付先
- ・参議院議長
 - ・衆議院議長
 - ・内閣総理大臣
 - ・財務大臣
 - ・厚生労働大臣

担 当：北海道愛別町議会事務局
高橋 留美
電 話：01658-6-5111（内線271）
住 所：北海道上川郡愛別町字本町179



ウイルス性肝炎患者に対する医療費助成の拡充を求める意見書

我が国において、ウイルス性肝炎、特にB型・C型肝炎の患者が、合計350万人以上とされるほど蔓延しているのは、国の責めに帰すべき事由によるものであることは、肝炎対策基本法や「特定フィブリノゲン製剤及び特定血液凝固第IV因子製剤によるC型肝炎感染被害者を救済するための給付金の支給に関する特別措置法」、「特定B型肝炎ウイルス感染者給付金等の支給に関する特別措置法」でも確認されているところであり、国の法的責任は明確になっている。

ウイルス性肝炎患者に対する医療費助成は、現在、肝炎治療特別促進事業として実施されているが、対象となる医療が、B型・C型肝炎ウイルスの減少を目的とした抗ウイルス療法であるインターフェロン治療とB型肝炎の核酸アナログ製剤治療に限定されているため、医療費助成の対象から外れている患者が相当数にのぼる。特に、肝硬変・肝がん患者は高額な医療費を負担せざるを得ないだけでなく、就労不能の方も多く、生活に困難を来している。

また、現在は肝硬変を中心とする肝疾患も身体障害者福祉法上の障害認定（障害者手帳）の対象とされているものの、医学上の認定基準が極めて厳しいため、亡くなる直前でなければ認定されないといった実態が報告されるなど、現在の制度は、肝炎患者に対する生活支援の実効性を発揮していないとの指摘がなされているところである。

他方、特定B型肝炎ウイルス感染者給付金等の支給に関する特別措置法の制定時（平成23年12月）には、「とりわけ肝硬変及び肝がんの患者に対する医療費助成を含む支援の在り方について検討を進めること」との附帯決議がなされた。しかし、国においては、肝硬変・肝がん患者に対する医療費助成を含む生活支援について、何ら新たな具体的措置が講じていない。

肝硬変・肝がん患者は、毎日120人以上の方が亡くなっており、医療費助成を含む生活支援の実現は、一刻の猶予もない課題である。

よって、本議会は、下記事項を実現するよう強く要望する。

記

1. ウイルス性肝硬変・肝がんに係る医療費助成制度を創設すること。
2. 身体障害者福祉法上の肝機能障害による身体障害者手帳の認定基準を緩和し、患者の実態に応じた認定制度にすること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

平成26年6月19日

北海道愛別町議会議長 中山 英一

【提出先】 衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、財務大臣、厚生労働大臣 各宛